

■成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1 鈴鹿川等源流の森林づくり協議会による取り組みへの参加者数	人	199	R2	190	257	278		300
2 森林整備面積(累計)	ha	1,646	R3	1,721.11	1,866.26	1,941.23		2,040
3 環境に関するイベント等への参加者数	人	4,460	R2	7,105	8,121	7,161		9,000
4								
5								
6								
7								
8								

■市民アンケート調査

項目	重要度	現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1 自然環境が豊かである	重要度	1.21	1.29	1.23	良好な自然環境を求める市民は増加しており、自然環境そのものは豊かであると感じている市民は多い。しかしながら、それを守る取り組みに対する満足度は低く、開発や管理放棄により自然が失われていることへの懸念も年々増えつつある。
	満足度	1.12	1.06	1.12	
2 自然環境と調和した開発が適切に行われている	重要度	1.05	1.17	1.13	
	満足度	▲0.18	▲0.17	▲0.20	
3 森林・里山や農地が保全されている	重要度	1.07	1.16	1.19	
	満足度	▲0.01	▲0.07	▲0.09	
4 自然とふれあえる場所や機会が充実している	重要度	0.99	1.08	1.05	
	満足度	0.29	0.38	0.38	

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 鈴鹿川等源流域の保全・継承	野登山における環境保全について、令和7年度より市民団体と協働した事業に着手するよう計画を定めた。また、市民向けのイベント「サマーフォレスト」も協働して実施した。
② 森林・里山・農地の保全	市民団体等による農地・水路等の地域資源の保全活動、里山・竹林保全活動や森林整備を支援し、森林・里山・農地の保全ができた。引き続き保全活動に対し支援する。
③ 多様な生態系の保全	「かめやま生物多様性共生区域認定制度」を推進し、多様な主体への働きかけを行いつつ、これにより認定した区域のエコツアー等での活用、ZTV等でのPRを実施した。
④ 環境教育の推進	かめやま出前トークを推進しつつ、自然公園の利用促進を実施した。この過程で、自然保育の推進を目指す保育士を支援し、連携を深めた。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

鈴鹿川等源流域の保全・継承と環境教育の推進については、亀山森林公園や鈴鹿川等源流地区をフィールドとして、河川の生き物観察会や三重県産材を使用した木とふれあう工作体験等を行い、多様な主体と連携・協力し、市民が自然環境と触れ合う機会や学習する機会を提供できた。森林・里山・農地の保全については、国・県の補助金を活用し、農地・森林・水路・農林道の地域資源の維持管理が市民団体や林業事業者で実施され、農地や森林が持つ多面的機能の維持・発揮や田園景観の向上等が図られた。多様な生態系の保全については、森林環境創造事業や森林経営管理事業により、適切な間伐が実施され、森林が持つ多面的機能の維持・発揮が図られた。また、市民団体と連携した希少種保全や、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会によるブナ原生林等植生保護に取り組んだ。さらに、農業用施設の長寿命化・維持管理の支援を行い持続的な農業に寄与した。「かめやま生物多様性共生区域認定制度」を運用し、区域の拡充や認定区域のPRを進めた。さらに、認定区域及び自然共生サイト亀山里山公園が視察を受け入れたほか、かめやま文化年事業としてこれらを巡るエコツアーを実施し、その活用にも取り組んだ。成果指標においても、各指標が目標値に近づいているが、市内の森林面積を考慮すると森林整備には、長い時間を要することに加え、林業従事者の確保、またイベントの参加者が固定化しつつあるといった課題はあるものの全体としては、基本施策が目指す姿に近づいていると考えられる。

B

まざまざ進んだ

今後の展開方針

鈴鹿川等源流域の保全・継承と環境教育の推進については、豊かな自然との共生を図るため、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会や多様な主体と連携・協力し、野登山における環境保全をはじめ鈴鹿川等の源流の自然環境等を守り継承するための活動を行っていく。また、森林・里山・農地の保全については、農地や森林の保全と地域資源の維持管理を行い、農地や森林が有する多面的機能を維持・発揮していくため、国・県等の補助金制度の活用を地域に積極的に働きかける。さらに、農業用施設の長寿命化・維持管理の支援を行い持続的な農業を支援していく。また、ネイチャーポジティブ経済の普及や環境に関する情報開示が進み事業者を中心に生物多様性への関心が高まっていることから、市は事業者による生物多様性保全を支援する。これら事業者の取り組みを市民団体等につなげ、生物多様性を保全しながら積極的に活用する体制づくりに取り組む。